

いんぱく NEWS

vol.1
March 21 2014



●発行:日本ボーイスカウト東京都連盟 日野第2団 ●編集者:中村俊郎 ●住所:東京都日野市程久保4-7-14 ●ホームページ:<http://www.hino2.net/>



深い絆は、

お互いを大切にし合うところから

スカウトの皆さん、皆さんは毎回の活動を楽しんでいますか、隊の仲間と楽しく活動していますか。

今年の日野2団の合言葉は「みんなで笑顔」です。

3年前の3月11日に東日本大震災が起り、多くの人が悲しく、苦しい体験をしました。そして、今でも大変な思いで生活している人たちが大勢います。その日以来、皆さんは「絆」という言葉を耳にし、口にすることがあると思います。

「絆」の意味は、ボーイスカウト的には、

「たがいに助けあいます」、「幼いものをいたわります」、「いつも他の人々を助けます」、「友情にあつい」、「親切である」と皆さんが知っている言葉の通りですが、それはまとめると「お互いを大切にし合うところ」だと思います。

皆さんはボーイスカウト活動を通して、技能や技術・知識を学ぶことだけでなく、意識する、しないにかかわらず自然と「絆」を深めています。

活動で得た「お互いを大切にし合うところ」を、ボーイスカウトの仲間だけでなく、家族・学校・地域社会で行ってください。そうすることで笑顔が生まれると思います。

皆さんの中には、受験準備、塾通い、部活、習い事、サッカーや野球をしている人もいます。

それでもボーイスカウトの活動に来れば、楽しい活動、楽しい仲間・助け合える仲間・笑顔が生まれる仲間がいることを忘れないでください。



平成26年2月末日
日野第2団
団委員長 榎本哲朗

ちょっと早めのクリスマス会

2013年12月15日

12月15日HBS・GS合同のクリスマス会が行われました。

カブ隊はクリスマスに向けて裏山でとれた大きく立派なドングリを使いオーナメントを沢山作りました。ビーズと一緒に使い、紐を通したり、ボンデで付けたりして自然の恵みを使った素敵なオーナメントが出来上がりました。またガールさんやボーイ隊と協力して、リースも作りました。しっかりと準備をしてクリスマス会を迎えることが出来たと思います。

当日は講堂でミサやキャンドルサービスが厳かな雰囲気の中で行われました。みんな神妙な態度をとっていましたが、恒例のプレゼント交換会が始まるとソワソワし始めます。

プレゼントの袋の中身をみてよるこぶ子、顔をしかめる子、様々な思いを胸にクリスマス会の1日が終わったのでした。



ドングリを使ったオーナメント



神父様からのお話し(子供ミサ)

ビーバー保護者からのコメント

クリスマス会に初めて参加しました。キャンドルサービスは厳かな雰囲気の中行われ、子供たちもいつものボーイスカウト活動とは違った表情をしているように見えました。本格的なイベントを体験することができて、私自身にも貴重な体験になりました。

白銀の世界で今年もスキーキャンプを実施しました!

2013年12月28日~30日

年末恒例のスキーキャンプが、昨年も12月28日から3日間、乗鞍高原スキー場にて行われました。3年前から宿泊数を1泊減らして行っておりますが、そんな影響を感じさせないくらい、みんなメキメキと上達し、初めてスキーをするスカウトも最終日にはグレンデ最上部から魔法がかかったように滑走できるようになりました。



世田谷9団との交流会も多少プログラムの混乱はありましたが、スカウトたちにとっては兄弟団同士で楽しいものになったようです。

40年近く続けているこのキャンプは、当初からスキー学校などに頼ることなく団指導者や団委員が丁寧に直接スキー指導をする点に特徴があり、その歴史と伝統は今後も大切につなげていきたいと思ひます。

最後に毎年お世話になっておりますこだま旅館の皆さんに感謝。



活動 かつどうだより 便り

成人おめでとう(万歳)

2014年1月12日



高幡教会では今年の1月12日(日曜日)の11時のミサで成人式のお祝いとパーティーを行いました。

ボーイスカウト日野第2団からはローバースカウトの甲野慎太郎君と三原直行君の2名が参加し、教会の方々と共に成人の祝福を高木神父様からいただきました。当日参加出来なかった田村俊輔君と福井勝貴君にも記念品をいただきました。

スカウトのお兄ちゃんである2名、制服にもアイロンがかかかっていてなかなか良いですね?!。二人は振袖のお嬢様に少々緊張気味かな。

これからもローバー活動や後輩の指導、お願いします。ガールスカウトは佐々木さんです。

甲野さんからのコメント

成人という一つの大きな区切りに過去を振り返ってみると、家族、友人、ボーイスカウトの先輩後輩、指導者の方、高幡教会の方、多くの人に様々な場面で助けられながらここまで来たことに気付きました。今までお世話になってきた方への感謝を少しずつだとしてもお返しできるように、次は新しく成人となる人を助ける側になれるように。自分が未熟であることを忘れずに勉強を続けつつ、意志を新たにして日々過ごしていこうと思ひます。

東京のカトリックスカウトが

BP祭・合同ミサ開催。

日野第2団も45名が参加。

2014年2月11日



東京に大雪が降り、未だ雪が残っている2月11日火曜日・祭日に、麴町・聖イグナチオ教会(四谷駅前)で東京のカトリック教会が育成母体であるボーイスカウト、ガールスカウト約900名が集いBP祭・合同ミサが行われました。

この集いは、ボーイスカウトの創始者であるベーデン・パウエルがスカウト活動を始めた「神様と他の人々と自身に奉仕する」と言う原点を思い出し、東京で活動しているカトリックスカウトが神様とBPに感謝し、心をつなげて祈り、一致するために毎年行われています。

日野第2団からはビーバースカウトからベンチャースカウト迄指導者も入れて45名が参加しました。

ミサの中では、ベンチャースカウトの加藤恭平君が第一朗読を、共同祈願にBS石塚大和君、CS熊田啓允君が、また奉納には宮兄弟がミサ奉仕を行いました。

また、ミサの中でキリスト教章の授与式・顕彰式があり、第16回日本ジャンボリー会場で既に授与されている加藤恭平君が顕彰を受け、全員から大きな弥栄をいただきました。

日野2団のスカウト達と指導者達はみんな大活躍でした。神に感謝。

「自己表現」

ビーバー隊長 石塚武司

ビーバー隊の隊長をやっている、1番気に掛ける場所は1つだけです。思いっきり自己表現をスカウトがしているか?していないか?これだけです。

間違っても、えばってても、生意気でも、何でも良いんです。声に出したり、体で表現したりできれば良いのです。

こんなスカウトが居ました。ゲームをやっている途中で「僕は、争うのが苦手なんです・・・。」と、言ってくる子が居ました。こっそり、僕に伝えて来たんです。

物凄くその子を褒めました。めっちゃめっちゃ

褒めた。こっそりと木の葉草を2枚あげました。勇気ある一言。よく言った。それで良いのです。黙ってる方がおかしい。

人それぞれの主張を持っている年齢ですが、理屈に合っていない事を平気で言ってしまうし、間違ってる事が多い。でも、否定しちゃうと表現すらなくなっちゃう。

間違ってる良いんです。まずは伝えること、表現したことを褒める。そして間違ってたら楽しく間違ってる事を教えてあげる。こうありたいものですね。そして遠慮なく表現できる子をカブに上げて先輩スカウトに注意を受けると良いと思います。

カブ隊になったら秘密事を持ったりします。嘘をついてるわけではなく何か理由があって隠し事が出来る。これって成長の証。面白いですね。

さらに親分(ガキ大将)についていくようになって、組織たる物の基礎を感じる。役割も感じつつ行動をとり始めます。この感覚こそが3~5年生で養われるべき感覚です。

なので、僕の考えはとにかく元気に意見が言える子や、ふざけた事でも良いので表現できる子、生意気でもいいからしゃべれる子。大きい声が出せない子は小さい声でも良いので意見を持って伝えられる子供にする事が役割だと思っています。とにかく発散、発信できる子を作ります。



「大雪」

カブ隊長 辻剛

2/9カブ隊は翌週のスケートキャンプに向けてスカウトの荷物点検を計画していました。ところが、その前日、東京含め関東地方は40年ぶりという、ものすごい雪模様となり、スカウトハウス周辺はひざの上まであろうかという、50cmぐらいにも雪が積もっていました。

隊長としては、活動をやるかやらないか、スカウトの安全などいろいろなことを考えていました。が、前日から「この積雪は雪で遊ぶ、またとないチャンス!」ということ副長と一緒に考え、雪は降っていたものの、活動を実施することにしました。(まあ、前日時点ではこんなに記録的な大雪になることまで予想していませんでしたが)さて、当日、保護者の方々も「こんな日に活動?」と思われると思います。なにせ、大雪で車での移動は困難、モノレールも止まり、遅れ気味の京王線しか交通手段はなく、ハウスまではひざま

で埋まるパウダースノーの積雪。それでも、スカウト達は集まってくれました。

さっそく、巨大なかまくら作り。炊事場前に巨大なかまくらができました。団委員長さんも駆けつけてくれました。(しっかりスキーウェア着て)あそびの天才達の活動はさらに続きました。ベンチャーの横にあるカヌーを使って雪の上を滑ろうというのです。早速プランが練られました。発射台は、板や台を使って急坂を作成、斜面に溝が掘られず滑り易いコースが完成。まるでリュージュのコースのよう。最初はなかなか滑りませんでしたが、いろんな研究を重ねてスリルあるコースが完成し、皆で楽しみました。いやあ、ものすごく楽しかった。「あそび」ことに対してはいろんな「やってみよう」があり「研究」が始まるんだなという活動のひとつでした。「え、荷物点検?」ちゃんとやりましたよ。デンコーチの指導の下、イメージトレーニングでしゃか〜りと厳し〜く確認会を。

その後、団会議もありました。集まった雪かきチームは、教会~修道院の坂道へ翌日タグシーが入れるように雪をかきまくったことを追記しておきます。

もっとも、その時には翌週さらにスゴイ大雪となりスケートキャンプが中止になるなんてことは知るよしもありませんでした...



「BS隊プロのおすそ分け」

ベンチャー隊長 西原睦

2/11合同ミサのサブプログラムとして、上野の国立科学博物館に行ってきました。合同ミサが終了後、今日観察したことをクイズ形式でスカウトに問いました。答えられないだろうと予想した問題もあり

ましたが、必ず誰かが正解してくれました。スカウトの観察力は素晴らしい。皆さんも挑戦してみてください。

- (1) 国立科学博物館の入口にあった乗物?
蒸気機関車(D51)
- (2) 恐竜が絶滅したのは何年前?
約6600万年前
- (3) 全ての恐竜に共通の特徴?
直立型の脚を持つ

- (4) 大恐竜博はいつまでやってる?
2014年2月23日(日)
- (5) 白亜紀最末期7000万年前の大型肉食恐竜?
タルボサウルス
- (6) 多くの標本の提供機関?
モンゴル科学アカデミー
- (7) 大恐竜博の入場料は?
子供600円

日本ボーイスカウト東京連盟日野第2団 (高幡カトリックボーイスカウト) 団情報

①平成26年度登録状況

年度	団委員	隊指導者					隊計	指導者計
		ビーバー	カブ	ボーイ	ベンチャー	ローバー		
平成26年	18	5	8	2	2	1	18	36
平成25年	14	4	6	4	3	1	18	32
対前年増減	+4	+1	+2	-2	-1	0	0	+4

年度	スカウト					スカウト計	総合計
	ビーバー	カブ	ボーイ	ベンチャー	ローバー		
平成26年	7	9	21	2	6	45	81
平成25年	6	8	26	6	10	56	88
対前年増減	+1	+1	-5	-4	-4	-11	-7

②日野2団運営体系

育成会

スカウト活動を行う団の運営支援を目的に設立(資金面・施設・教育等々)会員はスカウトの保護者・本会の趣旨に賛同する有志・修道院または教会関係者等役員を置き、総会にて選出する。

団

ボーイスカウト教育を実施する単位の隊と、団の運営に責任を持つ団委員会で構成されます。

団委員会

団委員長・副団委員長
教会担当 / 組織拡充担当
財務担当 / 指導者養成担当
野営行事・施設管理担当
安全管理担当 / 広報担当
保護者ネットワーク担当

毎月団委員会実施 (団委員長と各団委員)

団委員は総会にて選任される。団委員会は各隊の活動を支援 団運営のための資金管理 スカウト活動の施設整備 活動備品購入・管理 スカウト募集 指導者教育 保護者との情報共有

隊

ビーバー隊 / カブ隊
ボーイ隊 / ベンチャー隊
ローバー隊

毎月団会議実施 (各隊指導者と団委員長)

隊指導者は団委員会にて選任される。 隊プログラム計画・実施 保護者との連携・情報共有 進歩制度に基づく教育・訓練

③ 第23回世界スカウトジャンボリー(23WSJ)情報

世界ジャンボリーとは、4年に1度開かれる世界スカウト機構主催のスカウトの大会です。世界スカウト機構は、世界で3,000万人以上が参画する世界最大の青少年運動組織です。2015年に山口県山口市阿知須・きらら浜で開催予定の第23回世界スカウトジャンボリーには世界161の国と地域から約3万人の青少年が集まり、約2週間にわたって、キャンプをしながら世界の仲間と体験を共有します。

- 大会期間 2015年7月28日(火)～8月8日(土)12日間
- 大会場所 山口県山口市阿知須・きらら浜

【日本連盟全体】

- 参加募集人数 合計6,000人(スカウト5,400人・指導者600人)
- 大会運営スタッフ 最大3,000人(奉仕スタッフ)
- 応募資格 14歳～17歳のボーイ・ベンチャースカウト
参加時点ボーイは1級以上、
ベンチャーはベンチャー章又は
ボーイ時に1級以上

【東京連盟新多磨地区(日野2団含む全16団)】

- 参加募集人数 指導者4名 スカウト36名 計40名

日野2団として

ボーイスカウト・ベンチャースカウト合せ数名推薦派遣予定、大会運営スタッフとして数名推薦派遣予定

復活祭(高木神父様から一言)

高木健次



高木健次

イエスは約2000年前に今のイスラエルで活動しました。聖書は、イエスが人々に神の事を教えたり、奇跡をおこなって病気の人を癒したりと語っていま

す。ある人が言いました。イエスが神だったら、ずっと生きて活躍してくれればよかったのに。でももしそうだったら現在ではイエスに会いたい人は多いので(カトリック信者だけで10億人以上)、あなたの予約は300年後です、となってしまうかもしれません。実際にはイエスは十字架につけられて死にました。聖書はその後イエスが復活したと伝えます。しかし

復活したイエスは以前と同じ活動を続けたのではなく、弟子たちに自分の仕事を引き継ぐように命じて、天に昇りました。イエスが天に昇ったので、今は誰でもイエスと話したい時、すぐに話せます。祈りを通して。イエスの活動は、奇跡はできなくても神と人を愛そうとするすべての人と共にあるので、世界中に及びます。キリスト教が復活祭で祝うのはこれです。